

# 2023 年度 NEXT 学生フェロー RARA 学生フェロー 募集要項

立命館大学  
NEXTフェローシップ・プログラム

大学院キャリアパス推進室

## やわらかアタマの 研究者 育てます

今後ますます複雑化・多様化する時代の中で、  
様々な課題に果敢に取り組み、解決することができる、  
新たな価値を創造することができる研究者を育てる――  
それが「立命館大学NEXTフェローシップ・プログラム」です。



## 募集日程

[第2次募集]

2023年1月23日～2月27日

## 応募書類

- ①応募申請書
- ②自己PR動画
- ③指導教員推薦書

R RITSUMEIKAN



RARA

RITSUMEIKAN ADVANCED  
RESEARCH ACADEMY

立命館先進研究アカデミー 次世代研究者育成プログラム

RARA学生フェロー

## [問い合わせ先]

### NEXT 学生フェロー

大学院課  
(大学院キャリアパス推進室)  
e-mail :  
[next-fs@st.ritsumei.ac.jp](mailto:next-fs@st.ritsumei.ac.jp)  
TEL : 075-465-8195

### RARA 学生フェロー

RARA オフィス  
e-mail :  
[rara@st.ritsumei.ac.jp](mailto:rara@st.ritsumei.ac.jp)  
TEL : 075-813-8199

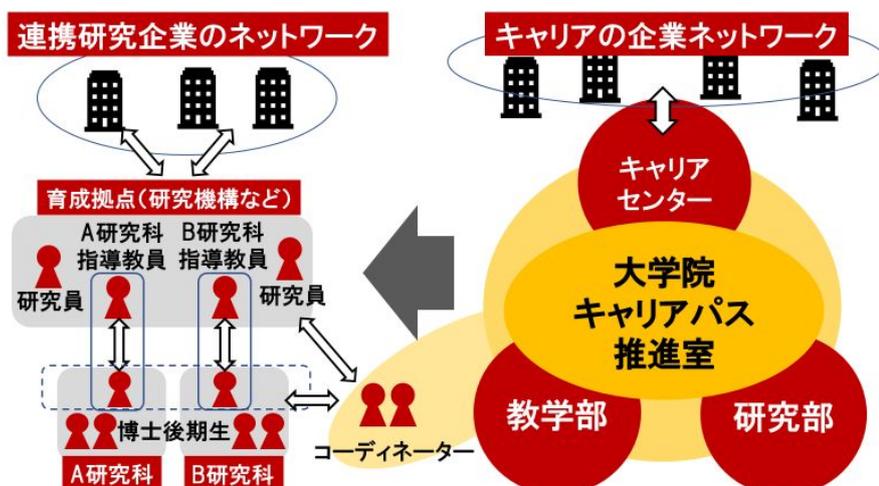
# 2023年度 立命館大学 NEXT フェローシップ・プログラム

## NEXT 学生フェロー 募集要項 (第2次募集分)

### 1. 「立命館大学 NEXT フェローシップ・プログラム」の概要

立命館大学では、学園ビジョン「R2030 チャレンジ・デザイン」において、「新たな価値を創造する次世代研究大学」と「イノベーション・創発性人材を生み出す大学」を本学が将来あるべき姿として掲げ、深い専門性に加えて学際的な視点と社会実装能力をもった高度専門人財を組織的に育成・輩出することを目指します。その一環として2021年度より実施している「立命館大学 NEXT (New Educational Cross-Training)フェローシップ・プログラム」では、優秀で意欲のある博士課程後期課程学生に対して、研究専念支援金・研究費の支給と学際的で先端的研究に専念できる環境を提供することにより、後期課程修了時まで高度専門人財としての資質を獲得することを支援します。本プログラムは、文部科学省「科学技術イノベーション創出に向けた大学フェローシップ創設事業」の採択を受けて大学院キャリアパス推進室\*が実施・運営しています。

\*大学院の入試、教学、キャリア・奨学金支援制度の有機的連携を行いながら、大学院生のキャリアパスを支援するための組織 [http://www.ritsumeai.ac.jp/ru\\_gr/g-career/](http://www.ritsumeai.ac.jp/ru_gr/g-career/)



### 2. 「NEXT 学生フェロー」とは

NEXT 学生フェロー (以下、フェロー生) は、博士課程後期課程の3年間を通じて、研究力とともに社会で活躍するために必要な力 (トランスファラブルスキル) を、より高いレベルで獲得することを目指します。

これらの力は、後期課程修了後の進路の如何（アカデミアでも企業等への就職でも）にかかわらず、重要な力量であり、さまざまな企画等に参加することによって、獲得することができるよう支援しています。

具体的には以下の通りです。

### (1) 研究力

フェロー生は、自身に取り組む研究をより深め、発展させるために、

- ・各種研究拠点・センターが実施する学際的研究プロジェクトに積極的に参加
- ・多様な分野の研究者や地域社会・産業界の人材と協働しながら研究に従事します。

これらの活動を通して、

- ・社会課題や地域課題の解決に専門知を応用する技法
- ・高度専門人財に必要な学際的視点と社会実装能力の涵養
- ・複眼的視点の獲得

することができます。

### (2) トランスファラブルスキル\*

社会で活躍するために必要なスキルを獲得するための研修やセミナーを提供しています。まず自身の強みや弱みを知り、セミナーに参加することにより、必要な力を獲得することができます。

トランスファラブルスキルは就職時に有益であることはいまでもありませんが、研究を進める上においても重要なスキルです。在学中に身につけることによって、修了後の活躍の幅が広がります。

\*コミュニケーションスキルやプロジェクトマネジメントスキルなど社会人として必要とされる能力のうち、特に転用・応用可能なスキルを指す言葉である。トランスファラブル (transferable) は「移動できる、持ち運べる」という意味で、会社や業種・業界、地域などを超えて移動・転職しても、活用できる汎用性の高いスキルを主眼としている。個人がそれぞれの仕事に特有の専門的な知識や技術を習得し、実際に発揮して成果を上げるために必要不可欠なスキルである。

## 3. 「NEXT 学生フェロー」に対する支援

フェロー生に対しては、経済的な支援に加えて、専用のセミナーの実施やコーディネーターの配置など、手厚い支援を行っています。

### (1) フェロー生専用のセミナー

#### ① PBL (Project-based Learning) 「SDGs 課題の解決策を考える」

フェロー生がグループで、SDGs 課題を1つ選び、それぞれの研究を合体しながら、解決策を策定します。自身に取り組んでいる研究をどのように社会に還元するのか、他の研究と組み合わせることで学際的視点を養いながら、新たな展開をめざします。

さらに、PBLを通じて養う、主体性やリーダーシップ、コミュニケーション能力、課題設定・解決力などは、研究を進める上で必須のスキルです。

#### ② ロジカルコミュニケーション研修

自分の意見や考えを端的にまとめ、わかりやすく伝える技法や読み手に負担をかけないメールを作成するテクニックを習得するための研修です。

研修を通じて身につけたスキルは、研究発表の質を向上するとともに、実社会においても非常に役立つものです。

これらのセミナーに加え、大学院キャリアパス推進室では、「キャリアマネジメントセミナー」や「博士と企業のマッチングセミナー」など、トランスファラブルスキルを獲得す

ることができるセミナーを多数用意しています。

コーディネーターがフェロー生の研究計画や進捗状況を考慮しながら紹介します。研究とのバランスを考えながら、自分自身のキャリア形成を図ってください。

## (2) 専用のコーディネーターを配置し、伴走型の支援を行う

企業出身の2名のコーディネーターが、年度初めと秋学期開始時の年2回、フェロー生全員と面談します。

面談では、フェロー生の得意分野、強みと弱み、キャリアに対する意識等について一緒に考えながら、主にキャリア形成に関するアドバイス・助言を行います。また、半年間を振り返り、成長や課題を確認しながら、フェロー生とともに考えるアドバイザーです。

また、研究とキャリア形成の両立や、各種研究拠点・センターが実施する学際的研究プロジェクトへの参画等についても、フェロー生の指導教員と懇談しながら、無理なく進めることができるようにしています。

## (3) 所属研究科の枠を超えたフェロー生同士の交流ができる

セミナー等への参加を通じた交流に加え、交流を目的とした企画を定期的実施しています。交流を通じて、共同研究に発展した事例もあります。また、日常の研究活動に関する相談や修了後のキャリアに関する意見・情報交換の場にもなり、孤独になりがちな研究生活に潤いを与えてくれます。

## (4) 大学院キャリアパス推進室が全面バックアップ

全体の実施・運営とフェロー生に対する支援は、大学院キャリアパス推進室が中心となって行います。

## 4. 募集内容

名 称	立命館大学 NEXT 学生フェロー
募 集 人 数	(第2次募集) 11名
採 用 期 間	2023年4月1日～2026年3月31日(3年間) 2022年9月入学者は、2023年4月1日～2025年9月25日(2.5年間)
応 募 資 格	以下のいずれかに該当している者。 <u>ただし、文部科学省国費留学生、外国政府奨学金受給者、日本学術振興会特別研究員、併給不可の奨学金受給者を除く。また、社会人入学者のうち、所属企業等から十分な生活費相当額(240万円/年を基準とする)の受給が可能なものを除く。</u>  ① 2023年度入学 博士課程後期課程入学試験に合格している者(4年制博士課程を除く) ② 2022年9月に応募資格のある研究科に入学している者 ③ 2023年度春学期に一貫制博士課程の博士課程第3年次相当に在学予定の者 *出願時にプロジェクト予備演習Ⅲを受講中(4月入学)、あるいは出願時にプロジェクト予備演習Ⅲの単位を取得した者(9月入学)。 <くわしくは衣笠独立研究科事務室まで> ④ 2023年度に4年制博士課程の第2年次相当に在学予定の者  *NEXT学生フェローに採用された場合であっても、2023年4月1日時点で上記要件を満たすことができない時は、NEXT学生フェローの身分を取り消す。

義務	①標準修業年限内に修了すること。 ②学内外の研究拠点等における研究プロジェクトに積極的に参加し、研究業績を創出すること。 ③大学院キャリアパス推進室やコーディネーターが指定する研修企画（キャリア形成関連を含む）等に積極的に参加すること。 ④研究倫理教育を受講し、受講証明書を提出すること。 ⑤コンプライアンス教育を受講し、誓約書を提出すること。 ⑥以下の書類を定められた期日までに提出すること。 a.年度当初の研究計画書 b.研究業績報告書 c.半期の研究進捗状況報告書 d.年度末の研究業績報告書 ⑦年度末の継続審査（大学院キャリアパス推進室実施）を受審すること。
支援金・研究費 <sup>*1</sup>	①研究専念支援金 月額 180,000 円（年額 216 万円）（課税対象） <sup>*2</sup> ②研究費 年額 34 万円（上限） <sup>*3</sup>
その他	他の学生の模範となるとともに、他の学生に対する学習支援・研究支援に積極的に関与すること。

<sup>\*1</sup> 9月入学者の支給期間は、後期課程3回生修了時（9月）までとする。

日本国政府による日本への入国制限等により入国できない場合は、支給することができない。

<sup>\*2</sup> 2か月ごと、奇数月（5, 7, 9, 11, 1, 3月）に支払う。

<sup>\*3</sup> 領収書・請求書等により、実費精算を行う。

## 5. 募集・選考日程

募集期間：2023年1月23日（月）～2023年2月27日（月）

合否発表：2023年3月16日（木）\*本人宛に通知（メール）

## 6. 応募書類

### (1) 応募申請書（form1）

\*応募申請書（form1）に、研究業績報告書をつけて、一つのPDFにしてください。

研究業績報告書は、本学出身者は「RI-SEARCH（立命館大学若手研究者学術・キャリア情報検索システム）」より出力したものを、他大学出身者の方は自由書式で作成してください。

### (2) 自己PR動画（様式自由）

以下の内容を含む、3分以内の動画を作成してください。

①研究内容と研究計画の概要（自分の研究の価値や位置づけ、実際に行う内容、3年間の計画）

②キャリアビジョンとその実現に向けた計画・活動

[注意事項]

\*研究内容を魅力的に伝え、学生フェローとしての熱意を示してください。

\*資料を提示しながら、顔がはっきり見えるように撮影してください。

\*録画方法は自由です。Zoomによる録画やパワーポイント「スライドショーの記録」など、各自工夫してください。

\*容量は（1）応募申請書と（3）指導教員推薦書を合わせて、100MB以内にしてください。

\*提出形式はmp4形式にしてください。

※提出前には必ず、最初から最後まで、音声・画面の動作確認をお願いします。

※mov形式では再生できない場合があるため認められません。

(2022.12.23版)

(3) 指導教員推薦書 (form2)

\*博士課程後期課程 (相当) の指導予定教員に、推薦書を記載してもらってください。

※詳細は、「申請チェックリスト」を参照し、間違いのないように作成してください。

※応募書類等の提出物は審査のみに利用します。なお、提出物の返却は行いません。

※応募書類等より取得した個人情報は、審査の利用目的以外には利用しません。

## 7. 提出方法・提出期限

(1) 提出方法 (提出するためには、まず会員登録が必要です。)

①Step1

以下の URL より、会員登録を行ってください。

URL : <https://rw.ritsumei.ac.jp/survey/guest/SVA4FD0.html?key=LNG20220713114743171849486>

※既に入學手続き等で会員登録が完了している場合は、そのまま STEP2 にお進みください。

②Step2

会員登録後に、改めて上記 URL にアクセスすると「入力はこちら」をクリックできるようになり、提出するための画面に切り替わります。

申請フォームに必要な事項を入力の上、応募書類[ (1) 応募申請書 (PDF で保存)、(2) 自己 PR 動画と (3) 指導教員推薦書 (PDF で保存) ]について、所定の添付枠にアップロードし、送信してください。

(2) 提出期限

2023 年 2 月 27 日 (月) 17 : 00

## 8. 審査

(1) 方法

大学院キャリアパス推進室会議のもとにおく「NEXT 学生フェロー・RARA 学生フェロー審査委員会」において、以下の観点で審議の上、大学院キャリアパス推進室長 (教学部長) が決定します。

(2) 観点

- ① NEXT 学生フェローへの志望動機 (熱意)
- ② これまでの研究活動を踏まえた自身の研究遂行能力
- ③ 研究計画の適切性と今後の発展性、標準修業年限内に学位を取得できる見通し
- ④ キャリアビジョンとその実現に向けた計画

## 9. その他

- ① 同時に募集する「RARA 学生フェロー」と併願することができます。
- ② 「日本学術振興会特別研究員」に申請中の方も応募することができますが、特別研究員に採用された場合は、いずれかのプログラムを選択しなければなりません。
- ③ 第 1 次募集に応募して不合格であった場合、第 2 次募集に再度応募することができます。

以上

[問い合わせ先]

大学院課 NEXT 学生フェロー担当

Email : [next-fs@st.ritsumei.ac.jp](mailto:next-fs@st.ritsumei.ac.jp)

TEL : 075-465-8195

## NEXT 学生フェロー FAQ

**Q1. 第1次募集に応募して不合格でしたが、第2次募集に応募することはできますか。**

A1. 応募することができます。

**Q2. 応募時に、第1希望と第2希望を記載することとなっています。実際にはどちらに決定するのでしょうか。**

A2. 応募者の希望に基づいて審査を行います。応募書類を審査する中で、第2希望の学生フェローとして採用する場合があります。

**Q3. 後期課程修了後の進路として、アカデミアを希望しています。NEXT 学生フェローは企業への就職者を対象にしているように感じますが、アカデミア希望でも役に立つのでしょうか。**

A3. 後期課程修了後の進路は関係ありません。現在、NEXT 学生フェローになっている学生の中にも、アカデミア志望の学生がいます。様々なキャリアを目指す学生が集うことにより、異なる考え方をすることもでき、自身の成長につながっています。進路の如何にかかわらず、自身の研究を推進し、成果をあげることが第一です。また、トランスファラブルスキルについても、すべての学生が獲得すべきスキルです。

**Q4. 学生フェローとしての期間は、3年間だけですか。**

A4. NEXT 学生フェローの場合、4年制博士課程を含め、博士課程後期課程（相当）の標準修業年限の3年間です。

**Q5. 2022年9月入学ですが、今回の募集に応募することはできますか。**

A5. 2022年9月入学の学生も応募することができます。ただし、学生フェローとしての期間は、2.5年間（2023年4月～2025年9月）となります。

**Q6. 英語基準の学生も応募することができますか。**

A6. 応募することはできます。ただし、大学院キャリアパス推進室等が提供する研究力向上やキャリアパス開発支援のプログラム等は日本語でのみ提供される場合が多いため、参加できる企画やサポートが限られる場合があります。

**Q7. 「立命館大学外国人留学生授業料減免」規程による授業料減免を受けている留学生は、応募することができますか。**

A7. 併給不可の条項はないため、応募することができます。

**Q8. NEXT 学生フェローに採択された場合でも、大学院キャリアパス推進室が行っている学内の各種研究助成制度を利用することができますか。**

A8. 併給は可能です。詳細は利用したい制度の募集要項を確認してください。

**Q9. 学生フェローに採択された場合でも、RAに従事することができますか。**

A9. RA（研究部所管）に従事することはできますが、教学RA（教学部所管）に従事することはできません。

**Q10. 【指導教員向け】自身が指導する複数の学生を推薦することはできますか。**

A10. 可能です。複数名の学生の推薦について制限は設けていません。

# 2023年度 Ritsumeikan Advanced Research Academy (RARA) 学生フェロー

## (立命館先進研究アカデミー次世代研究者育成プログラム)

### 募集要項 (第2次募集分)

#### 1. 「Ritsumeikan Advanced Research Academy (RARA) 学生フェロー (立命館先進研究アカデミー次世代研究者育成プログラム)」の目的

立命館大学は、2030年にグローバル社会で通用する新たな社会共生価値を提起する次世代研究大学の確立を目指しています(「学園ビジョン R2030 立命館大学チャレンジ・デザイン」より)。その実現に向けた中核構想として、未来社会に貢献する新しい研究分野の創出を目指す『Ritsumeikan Knowledge Nodes (RKN)』があります。Nodesとは結合点を意味し、海外の大学・研究機関等との継続的なパートナーシップの構築を通じて、国際的なネットワークにおいて本大学が重要かつユニークな知のNodesの役割を果たすことで、世界水準の研究・教育の展開を目指しています。

その具体的施策として、「立命館先進研究アカデミー」(以降、「RARA」)を設置し、大学院生を含む若手研究者から本大学を牽引する中核研究者までの研究者のキャリアパスに応じた研究環境の抜本的充実を図ることとしました。本プログラムは、本大学中核研究者の指導を受ける博士後期課程学生のうち、特に優秀な学生をRARA学生フェローとして選抜・認定を行った上で、育成支援を行うプログラムです。

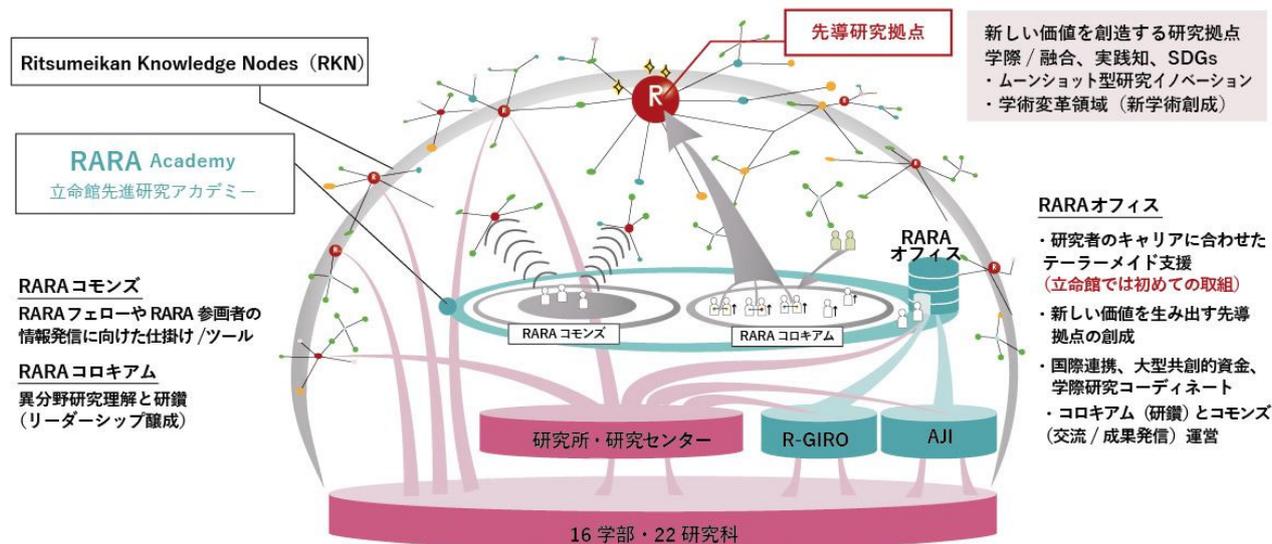
RARA学生フェローとして選抜された博士後期課程学生には、高い研究力を持つ指導教員と共にRARAに参画し、個々の研究力を向上させ、分野の異なる国内外の研究者と交わる中で、国際性と学際性、さらに複眼的視野を兼ね備えた国際社会で活躍できる資質と能力を備えた博士人材へと成長していくことを目指します。

なお、本プログラムは、JST(国立研究開発法人科学技術振興機構)「次世代研究者挑戦的研究プログラム」の採択を受け2021年度より実施しています。

#### 2. Ritsumeikan Advanced Research Academy (RARA) とは

Ritsumeikan Advanced Research Academy (RARA) (立命館先進研究アカデミー)とは、RKN構想を実現し、本大学の先導的・先進的研究拠点の形成に向けてリーダーシップを発揮することが期待される中核研究者の集まり(アカデミー)のことです。RARAを基盤にする研究者は、本大学の核となり他の研究者を巻き込み、先進研究の推進に取り組みます。

RARAは、本大学の先進研究を牽引する中核研究者である「RARAフェロー」、中核研究者へのステップアップに向け実績を積み重ねる「RARAアソシエイトフェロー」、次世代の研究者として活躍が期待される「RARA学生フェロー」から主に構成されます。



### 3. 「Ritsumeikan Advanced Research Academy (RARA)」の理念

「Ritsumeikan Advanced Research Academy (RARA)」(立命館先進研究アカデミー)は、新たな価値を生み出す先導的な学際研究拠点を創成するとともに、その成果を発信し、社会課題解決に向けた貢献を目指します。

新たな価値を生み出す次世代研究大学に向けて、個々の研究者のキャリアや目標に適したテーラーメイドによる研究環境の構築を図る RARA は Ritsumeikan Knowledge Nodes (RKN) の活性化の基盤となるとともに、立命館大学の研究を牽引し、新領域を切り拓く独創的な研究に挑戦する先進的研究を育成します。

### 4. 今次募集する RARA 学生フェローについて

RARA オフィスは RARA に参画する研究者に対してテーラーメイドでのサポートを行います。研究時間の確保と研究環境の向上に加え、異分野の研究者との交流・研鑽の機会の提供 (RARA コロキウム) を通じて、研究プロジェクトを構想・企画・牽引するマネジメント能力 (リーダーシップ) の伸張をサポートします。

RARA 学生フェローは RARA の構成員として、将来を担う若手研究者として必要とされる力量形成に繋がる機会が与えられます。例えば、研究者として求められる知識・情報を獲得するセミナーや、自身の研究分野以外の研究者、博士後期課程学生と交流・連携を通じて切磋琢磨する場の提供 (RARA コロキウム) や、研究成果発信の場として、学内外の研究者や企業関係者等とのネットワークの構築と自身のプレゼンテーションスキルの向上を目的とした研究成果を積極的に発表する機会 (RARA コモンズ) が設けられます。本プログラムの推進事務局である RARA オフィスは RARA 学生フェローに対してリサーチコーディネーターを配置し、RARA 学生フェローが自身の成長を実感できるように適切な指導・アドバイスをを行います。

また、RARA 学生フェローとして選抜された博士後期課程学生には、研究活動支援金として月額 18 万円 (年額 216 万円の生活費相当額) および研究費として年額 34 万円を研究計画書に基づき大学から支給を行う予定です。

本プログラムは高い研究力を持つ RARA フェロー (指導教員) と共に RARA に参画するコンセプトを持っていますが、本大学の多様性を活かし、異分野の研究者間の交流によるシナジーを期待する観点から、RARA フェローや RARA アソシエイトフェローの指導を受ける院生以外からも幅広く募集を行います。ただし、申請にあたっては、RARA および RARA 学生フェローの目的・趣旨を理解した上で応募することとします。

立命館先進研究アカデミー (RARA:Ritsumeikan Advanced Research Academy)

## 次世代研究者育成プログラム



(2022. 12. 23/RARA)

## 5. 募集内容

名称	RARA 学生フェロー
募集人数	(第2次募集) 8名程度※ ※うち2名程度は定員の関係上10月から採用となります。
採用期間	2023年4月を開始月として、標準修業年限までの期間を支援する。 (例) 2023年度に博士課程後期課程1年次の場合: 2023年4月1日~2026年3月31日
応募資格	以下のいずれかに該当している者。 <u>ただし、文部科学省国費留学生、外国政府奨学金受給者、日本学術振興会特別研究員、併給不可の奨学金受給者、および生活費相当額として十分な水準で、安定した収入を得ていると認められている学生(240万円/年を基準とする)を除く。申請にあたって対象外となる条件等について不明な点がある場合には、事前に事務局まで確認ください。</u>  ① 2023年度入学 博士課程後期課程入学試験に合格している者 ② 2022年9月に応募資格のある研究科に入学している者 ③ 2023年度春学期に一貫制博士課程の博士課程第3年次相当に在学予定の者 *出願時にプロジェクト予備演習Ⅲを受講中(4月入学)、あるいは出願時にプロジェクト予備演習Ⅲの単位を取得した者(9月入学)。 <くわしくは衣笠独立研究科事務室まで> ④ 2023年度に4年制博士課程の第1年次に在学予定の者  *RARA 学生フェローに採用された場合であっても、2023年4月1日時点で上記要件を満たすことができない時は、RARA 学生フェローの身分を取り消します。
義務	① RARA 学生フェローとしての自覚と責任を持ち研究活動に取り組むこと。 ② RARA コロキアムや RARA コモンズなど研究部が主催または指定するプログラム、セミナー等に参加および発表すること。 ③ 別に定められた書類を指定の期日までに提出すること。 ④ 立命館大学研究倫理指針にもとづき、高い倫理観を保持し、研究活動に携わるとともに、不正行為を行わないこと。 ⑤ 研究費の執行にあたっては、「立命館大学における公的研究費の管理に関する規程」に基づき、適正に執行すること。 ⑥ リサーチコーディネーターによる面談を受けること。 (※採用期間中は毎年度行います) ⑦ 年度末の継続審査(研究部実施)を受審すること。 ⑧ 標準修業年限内に修了すること。
支援金・研究費*1	① 研究活動支援金 月額18万円(年額216万円)(課税対象)*2 ② 研究費 年額34万円(上限)*3
その他	他の学生の模範となるとともに、他の学生に対する学習支援・研究支援に積極的に関与すること。

- \*1 9月入学者の受給期間は、当該入学者の標準修業年限が修了する時点（9月）までとする。  
10月から採択となる者の受給期間は、当該者の標準修業年限が修了する時点までとし、採択初年度の研究活動支援金の年額は108万円、研究費の年額は17万円を上限とする。  
日本国政府による日本への入国制限等により入国できない場合は、支給することができない。
- \*2 2か月ごと、奇数月（5, 7, 9, 11, 1, 3月）に支払う。
- \*3 領収書・請求書等により、実費精算を行う。

## 6. 募集・選考日程

募集期間：2023年1月23日（月）～2023年2月27日（月）

合否発表：2023年3月16日（木）＊本人宛に通知（メール）

## 7. 応募書類

### (1) 応募申請書（form1）

- \*応募申請書（form1）に、研究業績報告書をつけて、一つのPDFにしてください。  
研究業績報告書は、本学出身者は「RI-SEARCH（立命館大学若手研究者学術・キャリア情報検索システム）」より出力したものを、他大学出身者の方は自由書式で作成してください。

### (2) 自己PR動画（様式自由）

以下の内容を含む、3分以内の動画を作成してください。

①研究内容と研究計画の概要（自分の研究の価値や位置づけ、実際に行う内容、3年間の計画）

②キャリアビジョンとその実現に向けた計画・活動

[注意事項]

- \*研究内容を魅力的に伝え、学生フェローとしての熱意を示してください。
- \*資料を提示しながら、顔がはっきり見えるように撮影してください。
- \*録画方法は自由です。Zoomによる録画やパワーポイント「スライドショーの記録」など、各自工夫してください。
- \*容量は（1）応募申請書と（3）指導教員推薦書を合わせて、100MB以内にしてください。
- \*提出形式はmp4形式にしてください。  
※提出前には必ず、最初から最後まで、音声・画面の動作確認をお願いします。  
※mov形式では再生できない場合があるため認められません。

### (3) 指導教員推薦書（form2）

- \*博士課程後期課程（相当）の指導予定教員に、推薦書を記載してもらってください。

※詳細は、「申請チェックリスト」を参照し、間違いのないように作成してください。

※応募書類等の提出物は審査のみに利用します。なお、提出物の返却は行いません。

※応募書類等より取得した個人情報は、審査の利用目的以外には利用しません。

## 8. 提出方法・提出期限

- (1) 提出方法（提出するためには、まず会員登録が必要です。）

(2022. 12. 23/RARA)

### ①Step1

以下の URL より、会員登録を行ってください。

※既に入学手続き等で会員登録が完了している場合は、STEP2 にお進みください。

URL : <https://rw.ritsumei.ac.jp/survey/guest/SVA4FD0.html?key=LNG20220713114743171849486>

### ②Step2

会員登録後に、改めて上記 URL にアクセスすると「入力はこちら」をクリックできるようになり、提出するための画面に切り替わります。

申請フォームに必要な事項を入力の上、応募書類 [ (1) 応募申請書 (PDF で保存)、(2) 自己 PR 動画と (3) 指導教員推薦書 (PDF で保存) ] について、所定の添付枠にアップロードし、送信してください。

### (2) 提出期限

2023 年 2 月 27 日 (月) 17 : 00

## 9. 審査

### (1) 方法

学内に審査委員会を設置し、審査と選定を行います。審査委員会は大学院キャリアパス推進室長を委員長、RARA 学生フェロー事業統括を副委員長とし、研究部長、研究部副部長、および委員長が指名する学内外の有識者から構成します。評価項目に基づき、書面審査を行います。採否は審査委員会の審査結果に基づき決定します。

### (2) 観点

- ① RARA 学生フェローへの志望動機 (熱意)
- ② これまでの研究活動を踏まえた自身の研究遂行能力
- ③ 研究計画の適切性と今後の発展性、標準修業年限内に学位を取得できる見通し
- ④ 研究者の将来目標と本プログラム目的との合致

## 10. その他

- ① 同時に募集する「NEXT 学生フェロー」と併願することができます。
- ② 「日本学術振興会特別研究員」に申請中の方も応募することができますが、特別研究員に採用された場合は、いずれかのプログラムを選択しなければなりません。
- ③ 第 1 次募集に応募して不合格であった場合、第 2 次募集に再度応募することができます。

以上

[問い合わせ先]

RARA オフィス RARA 学生フェロー担当

Email : [rara@st.ritsumei.ac.jp](mailto:rara@st.ritsumei.ac.jp)

TEL : 075-813-8199

(2022. 12. 23/RARA)

## Ritsumeikan Advanced Research Academy (RARA) 学生フェロー (立命館先進研究アカデミー次世代研究者育成プログラム) FAQ

**Q1. 第1次募集に応募して不合格だったが、第2次募集に応募することはできるのか。**

A1. 応募することができます。

**Q2. RARA フェローの指導を受けているわけではないが、本プログラムへの応募はできるか。**

A2. 応募可能です。RARA フェローの指導を受けない博士後期課程学生からも広く応募を受け付けます。

**Q3. 応募は指導教員の推薦を得ている必要があるか。**

A3. 博士後期課程学生を指導する指導教員の推薦を得る必要があります。本プログラムは RARA 学生フェローとして、個々の研究力を向上させ、国際社会で活躍できる資質と能力を備えた博士人材へと成長していくことを目指しています。そのために、RARA が主催するプログラムの参加や、研究成果発信の一環としての附属校等でのセミナー実施等を RARA 学生フェローのオプションとしています。博士後期課程学生自身の研究活動と並行して、RARA 学生フェローとしての責務を果たしていくことを求める観点から、指導教員へ事前に本プログラムへの参画にあたっての推薦と了承を求めています。ただし、指導教員からの推薦書を準備できない場合などは事務局へご相談ください。

**Q4. 応募資格に「既に別事業により支援を受けている場合や、本大学や民間企業等から生活費相当額として十分な水準で、安定した収入を得ていると認められている学生は除く」とあるが、具体的にどの事業での支援を受けていると、本プログラムに応募できないのか。**

A4. 可能な限り多くの博士後期課程学生に対して、公平な支援を行う観点から、例示している事業等での支援を受けている学生については、本募集の対象外となります。自身が受給している支援が対象となるのかが不明である場合は、応募前に事務局にお問い合わせください。

**Q5. リサーチアシスタント (RA) として勤務しているが、本プログラムに応募できるのか。**

A5. 研究部所管のリサーチアシスタント (RA) として勤務している場合は、本プログラムへの応募が可能です。ただし、「応募資格」で例示している事業等で支援を受けていないことが条件となりますので、事前にご確認ください。なお、教学部所管の教学 RA は応募することが出来ません。

**Q6. 2023年9月に入学する学生は、本プログラムに応募することが出来るのか。**

A6. 2023年度募集の対象ではありません。

Q7. 「立命館大学外国人留学生授業料減免」規程による授業料減免を受けている留学生は応募することが可能か。

A7. 応募可能です。

Q8. 2022年度現在休学中で、2023年4月にD1として復学予定である場合や、2022年度現在在籍しておらず、2023年4月にD1としてあらためて入学する予定である場合、応募は可能か。

A8. 前者については、過年度の募集期間中（2021年9月27日～2021年10月13日、2022年1月28日～2022年2月16日および2022年2月21日～2022年3月11日）にすべて休学していた場合は応募可能です。後者については応募可能です。

Q9. RARA学生フェローが休学する場合、研究活動支援金・研究費の取り扱いはどうなるのか。

A9. RARA学生フェローが休学するときは、休学が発生した学期の研究活動支援金等の支給を停止します。停止した期間は給付期間に含めませんが、休学期間が通算して1年を超える場合、1年を超えた期間については給付期間に含めます。また、休学中は研究費の使用はできません。

Q10. 次世代研究者挑戦的研究プログラム（JST-SPRING）の採択者としての協力事項はどのようなものか。

A10. RARA学生フェローに採用された大学院生は、国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）による以下の事項に協力する必要があり、詳細は採用者に対してお知らせをさせていただきます。

① 博士後期課程等学生交流会への参加：

本事業に参加した博士後期課程等学生が大学横断的に交流を行う交流会で、他大学の学生との交流を通じ、学生同士の相互触発やネットワーク作りを図ります。

② 学生へのモニタリング調査：

JSTが支援学生に対して直接フォローアップを行うとともに、支援学生へのアクセスを担保し、直接、意見等を受け付け、それらの結果を各博士後期課程学生支援プロジェクトの評価に直接活用します。

③ 育成効果の評価及び追跡調査：

修了生のその後のキャリアについて、10年以上追跡調査を行いJSTに情報提供します。

Q11. 【指導教員向け】自身が指導する複数の学生を推薦しても良いか。

A11. 可能です。複数名の学生の推薦について制限は設けておりません。